

東京大学史料編纂所

史料編纂所しりょうへんさんじょは、日本の古代から明治維新时期までの前近代史料の編纂を中心事業とする歴史学の研究所です。その淵源は、1793年に国学者の塙保己一（はなわ・ほきいち）が江戸幕府の援助を受けて開設した和学講談所にさかのぼります。

史料編纂の基礎となる史料の調査・収集事業は、1885(明治18)年から本格的に始まり、その蓄積のうえに、1901(明治34)年、史料集の刊行が開始されました。以後100年余りの活動のなかで、『大日本史料』・『大日本古文書』・『大日本古記録』・『大日本近世史料』・『日本関係海外史料』・『花押かがみ』などの書目名で刊行された基幹的史料集は総計1000冊を超え、国内外の日本史研究者に活用されています。

画像史料に見る歴史の舞台

～絵巻や古写真から歴史の舞台が甦る！ 日本史に関する史料研究の最前線～

平清盛と平家一門が台頭する契機となった平治の乱を描いて、美術的にも高い評価を受けている『平治物語絵巻』と、近年オーストリアで発見されたモーザー・コレクションから明治初年の日本関係古写真を取り上げ、その調査・研究の成果についてご紹介いたします。

【開催日時】：8月7日（火）10：00～16：00

【開催場所】：史料編纂所 1階（展示ホール）

※事前申込等は不要です。ご自由にご覧ください。



【幕末に架けられた日本橋】

【明治初年の旧江戸城西ノ丸入口】